

現在は、司法研修所で前期修習を受けて勉強をしています。内容は1年間の実務修習に行くための準備で、具体的には講義と起案で構成されています。起案では起訴状を書いたり、弁護士や検察官、裁判官という立場で答弁書を書いたりしています。前期修習は6月までで、その後は高松に1年間修習に行くことになっています。



中学生の頃、 「弁護士っていいな」と 憧れて

僕が法曹を目指しているのは弁護士の仕事に憧れをもっていたからです。中学生の頃にアメリカのドラマで黒人差別に取り組む弁護士を見て、「ああ、弁護士っていいな」と思ったのがきっかけです。弁護士志望ですが、事務所に入って民事も刑事も幅広くこなせるようなオールラウンドな力を身につけて、自分の専門や強い分野を見つけていきたいと思っています。

本格的に司法試験の勉強に取り組んだのは大学を卒業してからです。卒業してすぐ東京に行き、予備校に通って勉強を始めました。司法試験は3回目

で合格しました。勉強のコツは、論文の場合は聞かれたことに対して素直に書いていくことです。あとは条文や定義、要件などの基本的なことはしっかり押さえておくということです。

大学時代のゼミで学んだことが今でも活かされています。事例に対する考え方など、深く掘り下げて学んだことが基礎になっています。ただ、当時はまだ勉強を本格的に始めていませんでしたので、あまり法律的な力がありませんでした。今になってみると、もっとしっかり勉強しておけばよかったと思います。また、司法試験に向けた勉強も、もっと早くからしておけばよかったと思っています。

大学時代、勉強にはあまり力を入れていなかった僕が、一番力を入れていたのはクラシックギター部の活動でした。そこで僕は指揮者をやっていました。新潟では他にやっているところもないので、東京に指揮の勉強に行ったり、演奏を聞きに行ったりしていました。部活で出会った友達とは今でも連絡を取り合っていますし、同期の友達とは毎年旅行に行っています。大学時代の友達は大切だと思います。

現在の大学生、これから入学してくる学生たちには、勉強でもサークル活動でも、何か自分が力を入れられるものを見つけて、それに一所懸命取り組んでほしい。あとは自分自身の将来のことを真剣に考えてほしい。4年生より1、2年生の方が選択肢も多くチャンスもあります。自分のやりたいことがあったら、早目の準備や勉強をして努力して行ってほしいと思います。



大西 敦

(平成10年・法学部卒業、
14年・司法試験合格、現
在・司法研修所にて修習中)

私は経済学部を卒業して1年後、市役所に就職しました。当初の3年間は教育委員会の保健給食課で学校保健の仕事をしていました。学校でケガをした子どもに対して給付金を支払うという仕事でしたので、経済というより法律に携わるような仕事です。

その後、高齢者福祉課に異動になりました。そこでは社会福祉施設の建設に携わっていました。施設をつくりたいという社会福祉法人に対して補助金を出すという仕事ですので、あまり住民との関わりはなかったです。ただ、扱うお金の額が非常に大きかったので、仕事の責任の重さを改めて深く考えさせられました。これだけ大きな支出が、本当に市民のためになっているのだろうか悩んだこともあります。福祉ですから望んでいる方はたくさんいるのですが、実際に望んでいるのか、支出に値する基準まで達しているのかというのが分からなかったです。

そんな時、市役所の行政課題セミナーという新潟大学の先生をお迎えした研修でがありました。関心をもって聴いたのは、公共事業の評価に関することです。直接福祉とは関わりがなかったのですが、私が抱えている疑問に何か答えが見出せるような気がしました。それが大学院に行きたいと思ったきっかけになりました。それに、自分業務に関する提言をまわりに伝え

るのに、自分の知識がないと説得させることは難しい考え、大学院に行くことを決めました。

学生時代は勉強していましたが、興味があったものに関しては一所懸命やりました。その一番が地方財政論でした。ただ、大学に入学した時と、卒業する時では興味のあることが全然違いました。入学した時は金融関係に興味があったのですが、勉強しているうちに会計や経営などに興味をもち始めました。そして、学生生活が進んでいくなかで地方財政論という科目に出会い、公務員という将来へ選択肢が広がり、市役所に入るきっかけになったのかもしれない。

最後に、私の経験をもとに新潟大学のみなさんにアドバイスをしたいと思っています。大学に入ってしまうと安心して最初は遊んでしまうと思うのですが、卒業してから大きく後悔するということが多々あります。何かしら興



伊神 竜一

(平成7年・経済学部卒業、現在・新潟市役所人事課勤務、大学院経済学研究科2年在籍)

その時々に関心のあるものを一所懸命学ぶ

味があってその大学、その学部を選んだのですから、後悔しないように時間を上手に使って学んでいただきたいと思います。また、4年間学んでいく上で徐々に興味というのは変わっていくものだと思います。その時に興味のあるものを一所懸命学んでいくという姿勢をもってほしいと思います。





現 在、東芝デジタルメディアネットワーク社で携帯電話向けのアンテナの研究開発をしています。携帯電話は、より小型化が進んでいますが、そのような中でも性能の高いアンテナの開発に取り組んでいます。東芝デジタルメディアネットワーク社を就職先として選んだ理由は、学生時代に電波を使った研究をしていたということもあって、無線通信に興味をもっていたからです。ノート型パソコンやモバイルAV機器、携帯電話もその中に含まれるのですが、そのような無線通信を利用した商品開発等に非常に力を入れていたので、自分自身のスキルアップがはかれるだろうと考えて志望しました。仕事は学生時代の研究と

いですし、良い環境であると思います。

ま た、研究などを通して感じたことですが、世界でも最先端の研究に取り組んでおられる先生方も多く、研究設備なども充実しているところで学ぶことができるのは、研究に興味がある人にとっては、モチベーションを高めることができると思います。

就 職を控えた学部生、大学院生へのアドバイスですが、会社を選ぶにあたって、どういう会社生活を送りたいのかということを考えるのは重要なことだと思います。それは、職場環境と自分の将来像に関わってくると思いますが、自分の希望する会社で、実際に自分の将来像が描けるのかどうかということの見極めが大切だと思います。難しいですが、そういうことを考えて選べると、会社に入ってから自分のもっているものと会社のギャップが少なくすむと思っています。

大学としての場が開かれていて 過ごしやすい環境

全く同じではないですが、分野としては近いものだと思っています。

学 生時代の思い出で印象に残っていることは、大学院の時に国際会議を通して世界の最先端の研究を行っている方々に会えたことです。論文等でよく見かけていたNASAの方々や海外の先生などの発表を聞いたことは、人生経験としてとても大きかったと感じています。

これから新潟大学を受験しようという高校生に対してのアピール

としては、総合大学なので講義やサークル活動などを通して文系、理系を含めているいろいろな人たちと交流をはかれるのが良いところです。大学としての場が開かれているという意味で非常に過ごしやす



佐藤 晃一

（平成12年・工学部卒業、14年・大学院自然科学研究科修了、現在・東芝デジタルメディアネットワーク社勤務）



部署の人達と

現在、国土交通省信濃川下流河川事務所調査設計課に勤務しています。信濃川下流河川事務所は、大河津分水から信濃川下流域の河川事業と海岸事業全般を扱っています。その中で、私は調査設計課調査係に所属しています。河川の流量や洪水に関する流量を調査する重要な仕事です。それと、いろいろな広報関係を担当しています。入省してから今まで、荒川と信濃川の砂防・河川事務所に勤務しましたが、川は川によって特性があって面白いと感じています。

自分が将来どんなふうに住んで行きたいのかということ意識して考え出したのは、研究室に入って3年目の頃でした。公務員試験対策を始めたのは1年弱前くらいからで、対策問題集はコツコツとやっていました。専門の分野もありましたが、私は林学だったので専門の問題集ではなくて、講義内容のノートを見たり、使った本や教科書などで勉強していました。**学**生の時に学んだことを活かせるような仕事をしたいと思って今の職に就きました。専門的なことが応用編のように出てくるのですが、基礎的なことは大学時代に学んだことが出てきます。今、学生時代を振り返ってみて、もっと勉強しておけば良かったというのが正直な気持ちです。

自分の経験から後輩たちにアドバイスです。勉強も大切なのですが、就職すると人との関係ややり取りが何より重要になってきます。学生の時でも、ただ言わ



れたことをやるだけではなく、挨拶や先生とのやり取りなども大切です。アルバイトなどを通して、人との対応や関係づくりをきちんとできるように心がけて生活していると、社会に出て通じるようになると思います。また、与えられた仕事をその通りにこなすのではなく、最善の形に持っていけるように、普段から色々な角度で物事を見るのも大切だと思います。知識と経験を積み重ねていくことで、たくさんの選択肢からベストなものを選べるようになると思います。

また、就職するとやれる範囲というものが限られてきますので、縛られることの少ない大学時代にやりたいことを見つけて、いろいろ挑戦してみるといいと思います。自分がやってみたいことをやってみて、そこからもっと突き詰めたいことがあれば、自分の道として進んでいけばいいと思います。学生は時間もいっぱいあるでしょうし、やれることはやって、将来自分がやりたいことを見つけて下さい。

勉強も大切だけど、 人との関係づくりが より重要



梅田 ハルミ

(平成9年・農学部卒業、現在・国土交通省信濃川下流河川事務所調査設計課勤務)



総合学習で中学生を指導することもある